

「Gifuture Session」

目 的

（公社）岐阜青年会議所の理想のまちの姿と運動方針を作成するために、調査・研究結果を基にまちづくり運動ビジョンの素案を作成し、様々な団体や個人の違った視点からのご意見を頂くことで素案のブラッシュアップをしていきました。

概 要

「Gifuture Session」では60名の方にアンケートとヒアリングを行い、まちづくり運動ビジョンの素案を基として、ぎふのまちに必要なことや意見を頂き、理想のまちの姿を掲げるために、必要なことをまとめ、運動方針に繋げました。

調査・研究から導き出したまちづくり運動ビジョンの素案

夢実現都市 ぎふ

日本一住み暮らしたい
幸福都市 ぎふヒアリング
結 果

- 意見
- 若い世代の力でぎふのまちを盛り上げて欲しい。（行政関係者・企業・NPO法人）
 - 青年経済人が中心となってまちづくりの新しい枠組みを創って欲しい。（企業）
 - NPO法人等の個々での活動が停滞し活動に限界を感じている。（NPO法人センター）
 - NPO法人やまちづくり団体との協働での活動や支援ができれば活動のきっかけができる。（企業）
 - まちの活性化やまちづくりに地域の力は必要であり、支援をしていく体制もある。（行政）
 - 自然にあふれた魅力的な環境や子育てに適した自然環境を重視したい。（市民）
 - 多様なライフスタイルに合わせ自身が選択できる暮らし方。（NPO法人）

ワード

持続可能な活動とまち・各種団体の躍動・Win-Win（相互利益の享受）・シビックプライド（郷土愛）・自分事・協働と成長・若者の活躍・発信力や他地域との文化交流（海外も含む）・グローバルゼーション・誰一人残さない持続可能なまち・小さなコミュニティを巻き込んだ運動

考 察

いま、ぎふのまちで様々な取り組みをしている行政・各種団体・企業・市民の中では、個々での限界や協働のきっかけづくり、地域課題への若者の関わりなど様々な課題が見えてきています。一方で、地域の力を必要とし、それを支援していくことのできる環境はできています。

今後、ぎふのまちには、個々の活動だけでなく、より多くの人の繋がりをもって活動していくことや多様なひとが暮らすことのできる土壌作りや活動における若者の力を必要としています。

調査研究・「Gifuture Session」を経て

10年後ぎふのまちの姿として、時代と共に変わる地域課題をあらゆるパートナーと連携・解決し、持続発展していくまちとするためには、まちづくりだけでなく、ひとづくりをしていくことも重要です。

そのためには、ぎふのまちに住み暮らす人びとがまちを良くしたいという同じ目的のもと繋がることで、様々なひとの力を結集し、ひととの繋がりの中で成長していきます。ひととの繋がりによって成長した力が繰り返しぎふのまちへと発揮されるまちづくり運動ビジョンを掲げることが必要であると考えます。

委員長
総 括

（公社）岐阜青年会議所は「ひとづくり・まちづくり」運動を通じて時代に求められる理想を形にすることで、ぎふのまちのため、ぎふに住み暮らすひとのため、「明るい豊かな社会」の実現へ向け活動を行っています。まちづくり運動ビジョンは、これからの時代に求められている

ことをいち早く捉え、目指すまちの姿と運動方針を定めたものになります。

これからの時代は、人口減少や高齢化社会により様々な地域課題が浮き彫りになってくると思います。様々な地域課題に直面している中でも、ぎふのまちをより良くしていこうと想う多くのひとびとに出会いました。様々な方のぎふのまちへの想いを聞くことで、理想の未来に夢や希望を見出す新たなビジョンを策定することができました。ぎふのまちをより良くしていきたいと想うひとが多くいるぎふのまちに、これからの時代を担う若者が市民と共にムーブメントを起こし、ぎふのまちをより良くしていきたい人たちと共に力を発揮することで、ぎふのまちが持続発展していく土壌を創り出していきます。そして、ぎふのまちは若者が中心に市民が理想の未来を語り合い、夢や希望を叶えるための先進的な試みに心を躍らせるひとびとで溢れ、国内外の多くのひとが住みたい！住み続けたい!! と思えるモデル都市として輝けることを信じています。

最後に、まちづくり運動ビジョンの策定にあたりご協力頂きました全ての皆様に感謝を申し上げます。

公益社団法人岐阜青年会議所

まちの未来デザイン委員会 委員長 中 島 敬 匡

【発行】 2020年度 まちの未来デザイン委員会

副 理 事 長 四ツ橋 憲 彦
室 長 平 野 裕 司
委 員 長 中 島 敬 匡
（編集責任者）

副 委 員 長	小 野 慶 太	恩 田 佳 幸	野 崎 俊 輔
委 員	岩 塚 一 真	岡 田 誠	岡 本 朋 大
	奥 村 彰 規	熊 田 元 樹	高 橋 鏡 充
	坪 内 亮 一 郎	松 村 友 昭	武 藤 一 将
	澤 井 洸 太	高 島 誠 也	



ひとびとが躍動しぎふ
持続発展するまち

～ひとの可能性が集い 繋がりが 発揮されることで輝くまちの未来～

まちづくり運動ビジョン
報告書

公益社団法人 岐阜青年会議所

ぎふのまちの現状

ぎふのまちは少子化により人口減少が進む中、都市圏への若年層の転出超過も続いており、主に20代の男女が県外へ転出しています。これからのまちや次代のまちづくりを支えていく若者が転出することは、高齢化が進む地方自治だけでなく、まち全体が存続していく上で大きな問題となっており、解決していくべき課題となっています。

調査・研究

調査結果 ①

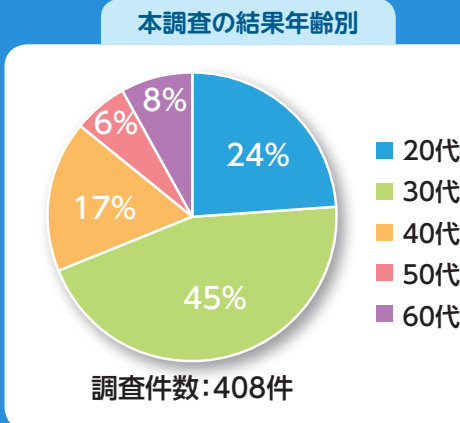
目的

様々な角度から岐阜の現状を知り、これからのぎふのまちに何が必要で何が求められているのかを調査し、まちづくり運動ビジョンの素案に繋げていきます。

概要

岐阜市のイメージで「商業や工業に活力のあるまち」・「新事業を展開しやすいまち」・「労働環境改善に進んでいるまち」・「外国人が住みやすいまち」・「若者による活力があるまち」の項目にて低評価が目立っています。（令和元年岐阜市市民意識調査より）

上記のことから（公社）岐阜青年会議所では2つの仮説を立て調査を行い、408件の回答を頂きました。その中から意見を集約し、仮説を基に研究を行いました。



調査・研究結果

仮説 1

ぎふのまちに誰もが活躍できる居場所があるのか。

- ぎふのまちを「居場所」のあるまちと感じている一方で、多様性における繋がりを求めるかという質問に対しては、否定的な意見が多くありました。
- 環境があれば受け入れるが、既にある現在のコミュニティ外での受け入れについて消極的な意見がありました。
- 多様性は必要と感じているが、その環境がないという意見がありました。
- あえて多様性を広げる必要があるとは思えないなど、保守的な意見もありました。

仮説 2

若者はぎふのまちに魅力を感じていないのではないか。

- 若者の主な転出超過の理由は「自分のしたいことを見つけたい」「東京で働いてみたい」など、都市部にやりがいや憧れを求めているものです。反対に、ぎふのまちでは自分の夢ややりがいを見つけることが難しいと感じています。（「東京都在住者の今後の暮らしに関する意向調査」より）
- 投票率を見ると、20代、30代の投票率が他の年代と比べ低水準になっており、まちの未来への関心の薄さが分かります。（国政選挙の年齢別投票率の推移より）

考察

ぎふのまちが持続発展していくためには、「若者の活躍できる場」と、「ダイバーシティの浸透」が鍵になると考えます。そのためには、多様性を受け入れる環境創りと、若者がぎふのまちに対して魅力を感じ、若者の力を発揮する必要があります。

考察からまちづくり運動ビジョンの素案を考え、
「Gifuture Session」を実施しました。

新たなまちづくり運動ビジョン

ビジョン ①

まちづくり運動ビジョン策定における背景

（公社）岐阜青年会議所では、人口減少が進む現代において、地方都市であるぎふのまちが地域の活力を失うことなく持続発展していくまちとなるために、地域の課題解決と次代を担う若者の積極的な参画が必要であると考えます。ぎふのまちが様々なパートナーシップを生み出し、地域の課題解決とまちづくりに積極的に取り組む主体者としての若者を創出していきます。若者の積極的なまちづくり活動によって、行政だけでなく各種団体・コミュニティ・企業・市民を巻き込み、そこから生まれる個性的な発想や、魅力的な取り組みは多くのひとを惹きつけるのです。個性的な発想や魅力的な取り組みによって多くの市民が、身近な課題に気づき、自らが地域課題を解決するためのムーブメントを起こしていきます。そして、ぎふのまちは若者を中心に市民が理想の未来を語り合い、夢や希望を叶えるための先進的な試みに心を躍らせ、国内外のひとが面白さと可能性を求めて集まるまちとなる必要があるのです。

（公社）岐阜青年会議所は
まちづくり運動ビジョンに掲げるまちにするために、
ぎふのまちに必要な要素を3つ定めます。

要素

『若者の力の発揮』



『多様なひととのつながり』



『居心地のよい土壌づくり』



それぞれの要素を運動方針として定め、発信していきます。

運動方針

まちの未来を担う若者の
躍動と若者が主体となる
フィールドの創造

行政・各種団体・コミュニティ・企業・市民との
パートナーシップによる
多様な価値創造と課題
の解決

夢や希望を叶えるため
誰もが挑戦できる心躍る
環境の創造

ビジョン ②

まちづくり運動ビジョン達成までのイメージ



（公社）岐阜青年会議所のまちづくり運動ビジョンに掲げるまち
ひとびとが躍動し持続発展するまち ぎふ
～ひとの可能性が集い 繋がり 発揮されることで輝くまちの未来～

（公社）岐阜青年会議所はまちづくり運動ビジョンを達成させるために、3つの運動方針を基に、時代の変化のその先を見越し、柔軟に活動をしていくことで、今後の運動発信と共に行動をしていきます。

まちづくり運動ビジョンロゴマーク



ひとびとが躍動し
持続発展するまち ぎふ
～ひとの可能性が集い 繋がり 発揮されることで輝くまちの未来～

ロゴマークの 意図

「若者の力の発揮」、「多様なひととのつながり」、「居心地のよい土壌づくり」の3つの運動方針を表す赤・青・緑のひとで表し、3人のひとが躍動する様子は燃え上がる炎や輝く光を表現しています。「若者の力の発揮」は、活力や活動的な若者のイメージの赤。「多様なひととのつながり」は、安心感や信頼など落ち着きがあり、多様なひととも繋がれるイメージの青。「居心地のよい土壌づくり」は、穏やかな色味とやすらぎを感じ、自然のイメージの緑。また背景の図形の色は「若者の力の発揮」、「多様なひととのつながり」、「居心地のよい土壌づくり」を意味し、右上に上がっていくイメージは持続発展していくまちへ向かっていくことを表現しています。